

平成29年度 公益財団法人福岡観光コンベンションビューロー事業報告

はじめに

平成29年の福岡空港・博多港の外国人入国者数は、対前年比約16%（約40万人）増の298万人となり、6年連続で過去最高を更新した。

これは、福岡空港への格安航空会社（LCC）の新規就航や増便等により、韓国、台湾をはじめ多くの国・地域からの入国者が増加したこと、また、平成29年の外国からのクルーズ客船の寄港回数が309回で全国1位の入港数があったこと、さらには、当財団の国内外での各種観光プロモーションなどが相乗的に効果をもたらしたことによるものである。

平成26年度に設置した「Meeting Place Fukuoka」（MPF）の活動では、日本政府観光局（JNTO：Japan National Tourism Organization）が昨年秋に発表した、平成28年の都市別国際コンベンション開催件数において、前年の363件を上回る383件を記録し、8年連続で政令市第1位を維持するとともに、昨年6月には世界各国の国際会議協会（ICCA）会員及び世界の学術団体・協会VIPが一堂に会す「ICCA Association Meetings Programme」（ICCA AMP 2017）がヨーロッパ以外のエリアで初めて福岡で開催され、福岡の知名度及びブランド力は大きく向上したところであり、国際観光・コンベンション都市としての地位や基盤は、着実に確立されてきていると考えられる。

（ ）内は前年度決算額

1 福岡の魅力づくり 76,233千円（81,224千円）

(1) 観光案内・観光客の利便性向上 64,711千円（69,394千円）

外国人観光客を含む来福者へのニーズに応えるため、観光案内所での興行チケット販売や、接遇のレベルアップ等による、サービス向上を図るとともに、イベント情報の発信、多言語による「まち歩きツアー」の造成など、エリア観光の充実を図りながら、来福者が快適に過ごせる受入環境の整備に努めた。

① 観光案内所の管理・運営及び観光案内所のネットワーク化

(ア) 観光案内所の管理・運営を行うとともに、福岡の都市型観光の魅力であるイベントを外国人観光客などに体験してもらうため、10月より観光案内所（天神）で興行チケットの紹介及び販売を試行実施するなど、ワンストップ対応の充実を図った。

(イ) 市内をはじめ近隣の観光案内所との連携を図り、各エリアの観光情報等の共有や接遇のレベルアップ等を目的とした研修会や情報交換会を実施した。

② 「よかなび」及びホームページの管理・運営

(ア) 福岡市の観光情報サイト「よかなび」及び当財団ホームページにおいて、市民や来福者および、賛助会員や集客産業関連事業者等に、各種情報提供を行った。

○最新の観光・コンベンション情報の提供

- ・「よかなび」による情報提供 439件（うち多言語58件）
- ・当財団ホームページによる情報提供 149件

○ページビュー

- ・よかなび 8,187,274 PV
- ・当財団ホームページ 498,626 PV

(イ) フェイスブック等のSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を活用し

たリアルタイムな情報発信を積極的に行った。

○フェイスブックは年間で各 365 本以上の情報を投稿

③ まち歩き観光振興事業

(ア) 「福岡市観光案内ボランティアガイド」の運営および資質の向上

○福岡市観光案内ボランティア登録数 78 名 (平成 30 年 3 月 31 日時点)

○スキルアップ研修 8 回実施 (座学 3 回, 現地 5 回)

(イ) 無料観光案内及び無料定時ツアーの実施

○実施場所 「博多町家」ふるさと館, 福岡市役所 1 階ロビー,
福岡城むかし探訪館 (平成 29 年 12 月まで)

(ウ) まち歩き事業の実施

○まち歩きコース 全 49 コース

○まち歩き実施回数 31 回 (20 コース)

○外国人向けバスツアーコース 1 コース実施 (博多部伝統文化体験コース)

○ウェルカムサポーターと連携した, 博多部・福岡城址常駐活動 計 15 日

④ おもてなし推進事業の実施

市内の観光サービス業従事者や賛助会員企業等を対象に, 福岡の魅力や歴史・文化に関する研修を行い, 福岡市全体のホスピタリティの向上を図った。

○実施回数 2 回

○延べ参加者数 218 名

⑤ ウェルカムサポーターの運営

(ア) 語学ボランティア「ウェルカムサポーター」の運営

○ウェルカムサポーター登録者数 169 名 (平成 30 年 3 月 31 日時点)

活動実績 年間延べ 698 名

(イ) 「ウェルカムサポーター」の研修

○平成 29 年度定期オリエンテーション実施回数 3 回 (6 月, 12 月, 3 月)

○ラグジュアリー船寄港に合わせて, 事前研修を随時開催

(2) 福岡市の魅力増進 …………… 11,522 千円 (11,830 千円)

福岡市の魅力や歴史・文化・祭りなどの観光資源を活用した魅力づくりを実施した。

① 博多どんたく共催

博多どんたくの運営に参画 (福岡市・福岡商工会議所・当財団) するとともに, 行事期間中の来福者へ観光案内, 桟敷席の運営等を行った。

② 博多祇園山笠助成及び集団山見せの共催

博多祇園山笠への助成を行うとともに, 博多祇園山笠振興会や福岡市との共催により, 誘客を促進した。

○5 月 13 日・14 日のユネスコ登録記念イベント「祭 WITH THE KYUSHU」において, 会場に観光案内ブースを設置し, 来場者への案内や各種ガイドブックの配布を実施

○7 月 13 日の集団山見せの運営

③ 福岡検定の実施

福岡・博多の魅力をより広くより深く知ることで, 福岡への愛着を深めてもらい, 市民のおもてなし力を醸成するため, 福岡市・福岡商工会議所と共催で福岡検定を

実施した。

○第5回福岡検定（実施日 平成30年1月28日（日））

広報 メールマガジン登録者数 2,463名
メールマガジン発行回数 6回
フェイスブックページによる情報発信

申込者数等

申込者数	受験者数	合格者数
795人	686人	368人

④ 「福岡おもてなし委員会」の運営

国内外の観光客の誘致並びにホスピタリティ向上を目的として「福岡おもてなし委員会」を運営し、各分野の視点から意見交換を行い、観光ガイドブックの制作など、受入環境の充実に向けた事業を行った。（構成団体：主要観光施設、宿泊業界等30団体）

（ア）観光ガイドブックの制作

主要な観光施設や地図、祭り等の情報を掲載した観光ガイドブックを制作

○計48万部発行（日30万部・英7万部・韓5万部・繁3万部・簡3万部）

○配付先 観光案内所、国内外プロモーションでの配布など

○デジタル版をホームページに掲載

（イ）福ぶっくの制作

○ガイドブック「福ぶっく」年4回発行

○掲載内容 旬の観光情報と着地型観光プログラムを効果的に発信

○年間計28万部発行

○配付先 観光案内所等200箇所以上

（ウ）福岡観光マップの制作

○「福岡・博多の観光地図です」を発行

○掲載内容 福岡市内の都心部を中心に、地図、飲食店、観光情報等

○計30万部発行

○配付先 観光案内所等200箇所以上

（エ）おもてなし向上塾の開催

おもてなし委員会を構成する30団体・企業を対象に、おもてなし力向上を目的とした研修会を実施

○開催回数 5回

○参加人数 延べ37名

⑤ 観光物産品の普及・促進

福岡県観光土産品公正取引協議会事務局の業務を受託するとともに、土産品の普及・促進を図った。

⑥ 着地型観光の振興

福岡の魅力ある観光素材として、着地型観光プログラムの充実を図った。

（ア）「よかなび」及び「福ぶっく」による情報発信

○プログラム数 スポット型 31プログラム

定年・通年型 53プログラム

(イ) 当財団による着地型体験プログラムの実施

○博多券番の芸妓衆とお座敷体験の実施

実施回数：2回 参加者数：177名

○舞遊の館（着物体験）の運営に向けた、事業内容の企画・検討

平成30年4月1日より三の丸スクエア内にオープン

⑦ 各種行事への助成

博多座船乗り込み、博多伝統芸能振興会、おおほり祭り、博多おくんち、博多仁和加振興会等の伝統芸能やイベントに対し助成金を交付し、育成・発展を図った。

2 観光客の誘致 **10,328千円(22,566千円)**

(1) **観光振興事業の推進** **238千円(8,020千円)**

福岡市への観光客の増加を図るため、国指定重要無形文化財「博多祇園山笠」のPRや全国的に注目を集めている福岡の「食」を始めとした「博多ブランド」等の観光資源を海外や県外に広く発信するなど、観光振興に資する取組を推進した。

① 博多祇園山笠宣伝隊派遣事業

「博多祇園山笠」を広く宣伝し、山笠期間中（7月1日～15日）の観光客誘致を図った。

○市内宣伝

派遣年月日：平成29年6月6日（宣伝隊41名）

派遣場所：櫛田神社、西鉄福岡駅、NHK福岡放送局、RKB、TNC、

KBC、FBS、博多座前、キャナルシティ博多、JR博多駅前

○市外宣伝

派遣年月日：平成29年6月8日～9日

派遣場所：横浜・藤沢・鎌倉（宣伝隊37名）

② 観光情報発信（再掲）

○機関誌「オーシャンズ・フクオカ」の発行、ホームページの管理・運営

○福岡・博多のおもてなし観光ガイド「福ぶっく」及び観光ガイドブックの発行

○ソーシャルメディア等を活用した観光情報の発信

(2) **外国クルーズ客船受入事業** **9,767千円(12,284千円)**

クルーズ船観光客に対し、インフォメーションの提供や観光ガイドブックの配布、歓迎演出の実施などにより、観光客の満足度向上を図った。

① クルーズ船観光客への観光案内情報の提供

中央ふ頭のクルーズセンター内インフォメーションカウンターや箱崎ふ頭岸壁において、ウェルカムサポーターと連携し、観光、ショッピング、飲食などの総合案内や各種情報提供を実施した。

○活動回数 255回

○ラグジュアリー船寄港時には、市役所正面玄関にてインフォメーションを提供

② 歓迎演出の実施

外国クルーズ客船の初寄港やインセンティブツアー寄港時、ラグジュアリー船寄港時に和太鼓やダンスなどによる歓迎演出を実施した。

○歓迎演出実施回数 12回

③ クルーズ船観光客の市内への集客及びショッピングの受け入れ環境の整備検討
クルーズ客船で福岡を訪れる外国人観光客を地元の商業施設や商店街に送客することによって、福岡の魅力に触れる機会の創出や観光客の満足度向上を図るためのプランの検討を行った。

④ 新たな観光ルートの提案

○東京都内の外国人観光客向けサービス事業者へ営業を行い、福岡市の外国人個人旅行客の受入環境についてPRを行った。

○クルーズ商談会を開催することで、市内企業と船社のマッチングを行い、新たな観光ルートの創出を図った。

平成 29 年度クルーズ商談会

開催日 平成 30 年 2 月 23 日 (金)

場所 福岡市役所 15 階講堂

主催 福岡市・(公財)福岡観光コンベンションビューロー

後援 九州クルーズ振興協議会

参加団体数 旅行代理店 12 社 観光施設・商業施設・飲食店等 17 社

(3) 多様な連携 322千円(2,263千円)

九州各都市や各観光団体等との連携による共同営業事業、新たな観光コースの企画や、各協議会との連携を図り、情報交換を行った。また、各国総領事館、貿易事務所や、海外姉妹提携協会等との相互交流を通して、観光客の誘客・送客を促進した。

① 観光団体等との連携

(ア) 九州各都市や福岡都市圏、久留米、柳川の観光団体等との連携による共同誘致事業などを展開し、エリア及び都市間の回遊性の向上を図るとともに、新たな観光コースの企画による関東方面からの観光客の受入環境の充実を図った。

(イ) 広域観光関係団体との連携を図った。

【広域関係観光団体】

九州主要都市観光協会連絡協議会、福岡地区観光協議会、福岡県観光推進協議会、福岡県観光連盟、九州観光推進機構

② 在福岡外国公館等との連携

各国総領事館(アメリカ・韓国・中国・オーストラリア等)や台北駐福岡経済文化辦事処、韓国観光公社、各国貿易事務所等との相互交流を通して、観光客の誘客・送客を促進した。

③ 姉妹提携・観光協力協定観光団体等との交流連携

海外姉妹提携協会等との相互交流を通して、観光客の誘客・送客を促進した。

〈姉妹関係等締結状況〉

- ・ 釜山廣域市観光協会(昭和41年)
- ・ シンガポール政府観光局(平成6年)
- ・ ボルドー観光協会(平成10年)
- ・ 中華人民共和国広州市旅遊局(平成20年)
- ・ 釜山観光公社(旧釜山観光コンベンションビューロー)(平成22年)
- ・ タイ国政府コンベンション&エキシビションビューロー(平成23年)

④ 九州広場(小規模イベントスペース)管理

九州広場（市役所西側ふれあい広場北側緑地）を他都市自治体に貸し出し、PRイベントに供した。

3 MICE・海外インバウンドツアーの誘致・支援 …………… 107,057千円 (179,437千円)

国内外の誘致案件の調査・営業から、開催の受入支援や産業振興のためのビジネスコーディネートまで、MICEの推進を専門的にワンストップで行う体制としてスタートした「Meeting Place Fukuoka」(MPF)は設立4年目を迎え、過去3年間に実施した各種プロモーション・セールス活動の中から営業効果・費用対効果の高い事業への選択と集中強化を行い、『MPF3ヵ年事業計画』に掲げた誘致・開催目標の達成に努めた。

海外セールスにおいては、国際MICEおよびインバウンド誘致を実施し、海外見本市・商談会参加等の海外プロモーションや誘致事業をパートナー企業及び賛助会員等との連携により営業効率を高めた。

国内セールスにおいては、福岡市MICEアンバサダー・産学連携機構九州(九大TLO)との更なる連携に基づき、MPF誘致重点分野(次世代技術/クリエイティブ産業/食/医療医学/アジア/スポーツ)を中心とする学術系/産業系/産学官連携MICE及び、平成28年度から注力しているスタートアップ関連MICEの積極的な誘致に取り組んだ。

マーケティングにおいては、リサーチ・広報宣伝事業に加え、賛助会員による土産品販売やMPFグッズの開発販売に着手した。併せてMICE開催時のサポートメニューの充実化を図り、参加者の満足度向上・リピーター促進、さらに会員企業との連携強化、MPF自主財源の開拓を行った。

また、福岡観光プロモーション協議会事業においては、観光展への出展や、営業活動により、インバウンドツアー・修学旅行誘致を行った。

[誘致実績]

- 国際コンベンション 69件(前年比+4件)
うちICCA案件 24件(前年比-3件)
※ICCA本部に申請し認定されなかった国際案件多数
- 国内コンベンション 70件(前年比+15件)※1,000名以上案件
- インセンティブツアー 59班 9,326名(前年比+1,824名)
※クルーズ船によるインセンティブツアー1班4,000名は含まず

(1) セールス活動の強化

① セールス活動の強化

MPF設立のベンチマークであるICCA案件誘致目標を達成すべく、MICEアンバサダーとの連携強化、プロモーション協議会との新たな連携による海外セールス活動の強化、優良バイヤーが集まる国際MICE見本市・商談会における集中セールス(囲い込みイベント)等の継続実施を行った。とりわけ、6月末に世界各国のICCA会員(観光庁・JNTO含む)120名および世界の学術団体・協会VIP約30名が一堂に会した『第2回ICCA Association Meetings Programme』(ICCA AMP 2017)をヨーロッパ以外のエリアで初めて受け入れ、産業観光や浴衣着用のユニークベニューパーティ、土産品販売等のおもてなしを実施。これを契機に3件のICCA案件が決定したほか、他のMICE見本市やICCA総会における福岡のプレゼンテーション

機会を得るなど、MPFの重要課題である国際MICE市場における福岡市の知名度向上に繋がった。

② 産学官連携MICEの獲得強化

産学連携機構九州（九大 TL0）との連携継続、MICEアンバサダー事業の拡充、地元大学・首都圏でのPR活動、各種学協会・経済団体の本部・地元支部への積極的な営業展開により、地元経済効果の高い国内大型MICE（1,000名以上）および、BtoBビジネス機会を増大させる産業系MICEの誘致強化を行った。とりわけ、3回目を迎える『フランス-福岡（九州）経済フォーラム』（5月/在日フランス商工会議所との共催）では「イノベーション」をテーマに、ドローン等ベンチャー企業を含むフランス経済ミッションと地元参加者との産学交流の機会提供に努めた。

- (ア) 『ICCA AMP 2017』福岡初開催によって、世界のMICE関係者に福岡のプレゼンスをアピールした他、北京・シンガポールにてMICE見本市参加と福岡単独セミナーを同時開催
- (イ) MICEアンバサダー事業では、第2期アンバサダー14名の就任披露セミナー開催およびJNTOに倣った『福岡市MICE誘致・開催貢献表彰制度』の本格的実施。JNTO国際会議貢献賞では、誘致部門・開催部門いずれも受賞
- (ウ) 福岡市・福岡コンベンションセンター（FCC）・MPFとの三者連携誘致営業の強化継続（定例営業会議の他、国内外共同誘致活動を実施）
- (エ) 福岡地域戦略推進協議会（FDC）・戦略的パートナー・賛助会員との継続連携。特にMICE関連企業を主催者に紹介する新規カタログを製作
- (オ) 首都圏MICEセミナーの継続開催
- (カ) 地元経済団体との連携に基づくサイトビジットツアーの継続開催
- (キ) 東京観光財団および九州・沖縄コンベンション推進団体連絡会との連携による『第2回九州MICE商談会&FAMトリップ』を実施。世界各国からMICEキーマン24名を招聘

③ 国内外観光客誘致宣伝事業及び福岡観光プロモーション協議会事業

国が掲げる2020年の訪日外国人旅行者数4,000万人達成・8兆円消費額の目標をふまえ、MPF・プロモーション協議会双方が従来参画してきた国内外見本市・商談会の中から、福岡直行便が就航するアジア圏の見本市・商談会に効率的に参画し、BtoB商談効果の高い団体旅行誘致を心掛けた。更に国内外からの観光客誘致に向けて当財団が事務局を務める「福岡観光プロモーション協議会」の会員との連携強化を図り、見本市・商談会共同出展等のプロモーション活動を実施した。

《国内外観光客誘致宣伝事業》

- (ア) 国内事業：JNTO主催の各種インバウンド商談会に参加
 - 平成29年6月27日～28日 東アジア商談会（熊本）
 - 平成29年8月2日 香港訪日ウェディングツーリズムセミナー・交流会（福岡）
 - 平成29年11月29日～30日 VISIT JAPAN ASEAN+INDIA Travel Mart 2017 Autumn（大阪）
- (イ) 海外事業：JNTOや大手旅行社主催の旅行博・インバウンド商談会に参加
 - 平成29年6月23日～25日 日本の観光・物産博2017（台北）

○平成 29 年 8 月 25 日 JNTO インセンティブ商談会 in 北京（北京）

○平成 30 年 1 月 18 日 JNTO 台北商談会（台北）

《福岡観光プロモーション協議会事業》

(ア) 国内誘致宣伝事業

○ツーリズムEXPOジャパン 2017 出展（平成 29 年 9 月）

『福岡チーム』（福岡県観光振興課・福岡県観光連盟・福岡商工会議所・西鉄グループ・久留米観光コンベンション国際交流協会・福岡市・柳川市・当財団）による共同出展。ブースでは博多人形絵付け体験等で賑わいを創出したほか、併設の国内外商談会に参加した。

出展期間：平成 29 年 9 月 21 日～24 日

開催場所：東京ビッグサイト

○修学旅行誘致活動

修学旅行誘致ツールとしてのガイドブックをリニューアルするとともに、会員企業・団体と連携し、首都圏・関西圏・中国及び南九州等で、高校・中学校等をターゲットとした継続的な修学旅行誘致事業を実施した。

- ・九州 7 県合同修学旅行説明会、相談会への参加

派遣年月日：平成 29 年 8 月 13 日

派遣場所：中国地区（ホテルメルパルク岡山）

派遣年月日：平成 29 年 8 月 17 日

派遣場所：大阪地区（KKR ホテル大阪）

派遣年月日：平成 29 年 8 月 18 日

派遣場所：東京地区（アルカディア市ヶ谷私学会館）

- ・四国地区の中学校を対象とした誘致

派遣年月日：平成 29 年 7 月 7 日～9 日

派遣場所：高松市・坂出市・三豊市・徳島市

- ・鹿児島地区の中学校を対象とした誘致

派遣年月日：平成 29 年 11 月 21 日～22 日

派遣場所：鹿児島市内

- ・修学旅行誘致ツール改訂（3,500 部）

3 年ぶりの全面改訂を行い、最新の体験・見学施設等の情報を掲載

(イ) 海外誘致宣伝事業

福岡空港・博多港からの入国者数・伸び率共に 1 位の韓国、及び入国者数 5 位ながら伸び率が急速に減少中（-29%）のタイで開催される観光展への出展事業を一昨年度から継続実施した。

- ・釜山国際観光展（B I T F 2017）に出展

出展期間：平成 29 年 9 月 7 日～11 日

出展場所：釜山広域市

- ・タイ国際観光展（T I T F #22）に出展

出展期間：平成 30 年 2 月 7 日～11 日

出展場所：タイ バンコク

(ウ) 海外市場開拓事業

福岡空港・博多港からの入国者数伸び率 2 位のベトナムで行われる J N T O

主催ビジットジャパンセミナー・商談会へ参加した。

派遣期間：平成 30 年 1 月 25 日

派遣場所：ベトナム ホーチミン

(2) MICEワンストップ体制の運営強化

賛助会員企業・地元産業界との連携によるMICE開催時のおもてなし環境拡充と主催者向けの付加価値向上を目指し、各種事業を実施した。

(ア) 6月のICCA-AMPにて賛助会員による土産品トライアル販売を契機に、8月にはMICE会場における土産品販売説明会を行い、国際会議・大型コンベンションにおいて土産品販売を実施した。

(イ) MICEアプリのグルメ情報に賛助会員レストラン情報を追加、英語版アプリにMICE開催情報を追加するなど機能拡充を行った。

4 広報宣伝 2,612千円(8,504千円)

福岡の観光及びコンベンションに関する最新の情報や当財団の活動状況等を国内外に積極的に発信するなど、戦略的な情報発信を推進する。

① 機関誌「オーシャンズ・フクオカ」の発行

賛助会員をはじめ、全国の学会、関係機関等へ当財団の活動状況や福岡の魅力、観光・コンベンションの最新情報などを定期的に提供した。

○年間計1万部発行

② 財団ホームページの管理・運営(再掲)

③ 国際コンベンション開催件数実績調査

毎年、各関係機関・団体等に国際コンベンション開催件数実績調査を行い、福岡の国際コンベンション都市としての知名度向上を図った。

④ マスコミへの情報提供及び取材受入支援

海外からの取材等に対し積極的な支援・対応を行うとともに、福岡の観光・コンベンションに関する情報をテレビ、新聞、雑誌、ウェブメディア等に情報提供を行った。

5 賛助会員へのサービス提供 2,391千円(1,596千円)

会員間相互の交流促進や会員の意見を財団の事業運営に反映させるため、賛助会員交流会を実施するほか、賛助会員名簿や福岡市で開催される会議・展示会などの情報を網羅した「コンベンションスケジュール」を提供する。

① 賛助会員交流会の開催

当財団の事業報告や講演会のほか、会員相互の情報交換・交流の場を提供し、会員企業によるプレゼンの機会やPRブースの出展による異業種間のビジネスコーディネート創出の充実を図った。

○平成29年度賛助会員交流会

- ・開催日 平成29年11月28日(火)
- ・会場 ソラリア西鉄ホテル
- ・参加者 152団体 241名
- ・内容 第1部 講演会

①福岡観光コンベンションビューロー事業計画説明

- ②永年賛助会員への感謝状贈呈
- ③インバウンド推進企業の取組スピーチ
- ④基調講演

講師：Airbnb JAPAN 代表取締役 田邊 泰之

演題：Airbnbが描く旅のスタイル

第2部 会員懇親会

② メールマガジンの配信

賛助会員に対し、最新のイベント情報や会員企業からの情報をメールマガジンで配信した。

③ 「コンベンションスケジュール」の提供

当財団機関誌「オーシャンズフクオカ」や、ホームページを通して、当財団賛助会員へ「コンベンションスケジュール」を提供した。

6 組織運営の強化

MPF設立から4年目を迎え、3年間の検証を踏まえた事業の選択と集中、効率化に取り組むとともに、観光・MICEの多様な関係者との連携を強化し、新たな財源確保の枠組みを構築した。

(1) 賛助会員維持拡大への取組み

当財団を資金面で支援頂いている賛助会員との連携を深めるべく、コンベンション開催時の土産物販支援などにより、会員満足度の向上を図るとともに、職員一丸となって新たな会員獲得に向けた取組みを推進した。

○平成29年度新規加入会員 33社

(2) 自主財源の確保

MICEワンストップ体制の強化を図るとともに、MPF運営自主財源の確保を目的とし、MICE関連企業・団体との新たな協賛の枠組みとして、MICEパートナー制度を立ち上げ、運用した。

(3) マーケティング機能の強化

データに基づく戦略的な事業展開を図るべく、各種観光統計・観光情報の収集分析を行った。